

奉納歌仙「宗祇の記憶」の巻

小林 静司 捌

菖蒲酒宗祇の記憶よみがえる

兜飾りて句碑にそよ風

鯉幟村一番の旧家にて

手漕ぎの舟に父親を乗せ

どこからも見える聖峰肩に月

望遠鏡で鴨の看経

ウ そこはかと香り漂う枳殻の実

津波を刻む寺の石段

いったんは流れた話ぶり返し

小さき胸に思い続けて

ありがたし神に賜る恋心

松葉蟹食べ沖に月出る

炉を囲み皆で聴きし生き字引

和服の立ち居いとも貴やか

弓道の正鶴を得し音のよき

百を越そうよ世間長命

花の席馬子にも衣裳若づくり

刻を忘れて曲水の宴

ナオ 青き踏み弾むコーラス空近し

ステンドグラス放つ光彩

信徒寄す五島の聖堂遺産なる

別室に置く健康の器具

袖なしのワンピース着て早やはたち

肝だめしとて彼に抱きつき

背にある君の温もり切なくて

誰にもあるよ活きてゆく意味

幼より描く夢追う競技場

ダンスはルンバ軽きステップ

広き天ただ昼の月あるばかり

笑む野地蔵にあきつ寄り添う

ナウ 盛装の忘れ扇は巾着に

孫も揃いて今日は何の日

湯上りの卓球楽し家族旅

雪代山女揺らすせせらぎ

久々の歌舞伎巡行花大樹

板長自慢の春のおまかせ

小林 静司

中村 雄介

村田 悠

風間 忠純

鳥澤 由克

中村 純也

本屋 良子

近藤 焦肝

宮澤 次男

半田 有杜

櫻井 譲

大竹柳二郎

花月乙千寿

山本 則一

上村 昭廣

横手 陵山

水野 森雄

佐野 彰一

佐野 仙由

賀茂 博美

名波 秀夫

桃井 昭一

川畑 政輪

宮原うた子

鴻巣 洋子

水口 英男

窪田 浩晃

木内 法美

平澤 千恵

佐藤 孝子

井上 輝夫

杉山 節子

桃井 伴子

勝又 丘女

宗 匠

土屋 日菜

起首 令和五年四月二十五日

満尾 令和五年五月二十九日